



園だより

第6号

令和2年11月27日
駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

身体を動かすことを楽しむ

落ち葉をまき散らす風に、思わず身を縮めてしまう季節となりました。そんな寒さに負けず、元気いっぱい身体を動かして遊ぶ子どもたちの姿にたくましさを感じ、嬉しくなります。

11月14日の「お父さんと遊ぼう会」では、いちょう会会長高崎賢治様をはじめ多くのお父様にご協力をいただきました。ご参加いただいた方、そして人数制限のために参加できなかった方々のご理解・ご協力に心より感謝いたします。ありがとうございました。新型コロナウイルスの感染予防のため、密を避けた、例年と異なる「お父さんと遊ぼう会」となりましたが、子どもたちは大喜びで遊びのコーナーを回り、楽しみました。楽しかったこの体験が、今、子どもたちの遊びをさらに豊かにしています。

例えば、年長児は、赤広場でリーダーのお父様を中心に大縄跳びやドッジボールを行いました。これまで大縄跳びを楽しんできた子どもたちは、お父様方の前で跳びながら、喜びを感じ、さらに自信をつけたようです。その後、園庭でこれまで以上に大縄跳びが見られるようになりました。そんな姿を真似て、年少児には、縄を波のように揺らしながら遊ぶ姿が見られます。年中児は、「私だってできるよ」と大縄跳びを楽しんでいます。年長児には、これを機にドッジボール熱が高まりました。このように子どもたちは、身体を動かして遊ぶことをより楽しむようになってきました。

本園では、今年のテーマを『進んで身体を動かすことを楽しむ幼児を育てる 一多様な動きに視点をあてて一』として園内研究を進めています。身体を動かすことは、健康な身体だけでなく、たくましい心も育てます。しかし、近年の子どもには、身体を動かして遊ぶ時間も、場所も、仲間も少なくなっています。年長児の徒歩遠足で、出発してすぐに「疲れた!」と言う子どもがいて驚きました。特に今年は4・5月の休園中、身体を動かして遊ぶ経験が少なかったからでしょう。改めて幼稚園の大切さを感じます。園内研究では、日々の保育の中から子どもたちの身体を動かして遊ぶ姿を写真に撮り、それを見合いながら、どんな動きを楽しんでいるか、どんな環境が適切かなどを議論しています。また、実際に教員も同じ動きをして、身体のどの部分を使っているか確認しました。研究を通して、進んで身体を動かすことを楽しむ幼児を育てる指導法を探っていきます。

身体を動かすことを楽しむ幼児を育てるためには、ご家庭の協力も大切です。コドモンに、明治学院大学特命教授 福井直美先生の講演『健康な心と体を育てる 一足を育てる一』を載せます。時代の変化に対応した、たくましく生きる力が育つためには、健康な心と体が必要であり、そのためには足を育てることが大切であるという講演です。長年にわたり幼稚園の園長を経験された経験からの具体的で分かり易いお話です。本園では、次年度から上靴と外靴を、より足に良い物へと変えます。ご覧いただくといかに足の育ち、そして身体の育ち、さらには人間として育つために靴が大切かをご理解いただけたと思います。是非ご覧ください。そして、ご感想をコドモンまたは連絡帳でお聞かせください。保育の充実につなげていきます。また、7月に配信いたしました、藤原さき先生の『親子のリラゼーション』の講演も改めてご覧いただきますようお願いいたします。



「お父さんと遊ぼう会」年中・少児のラグビー。さすがワールドカップが行われた調布の子。素早く身をかかわします。



「お父さんと遊ぼう会」年長児は赤広場で大縄跳びを楽しみました。



年長児は、多摩川住宅の公園に徒歩で遠足に行きました。



園内研究会では教員それぞれが撮った写真を実物大投影機で拡大し見合います。



全身に力を入れた状態で裏返す遊びを教師も楽しみながら、身体のどの部分を使っているかを体験しました。